

## 活動報告②

### 「海外の CO<sub>2</sub> 分離回収技術の最新動向」

次世代型膜モジュール技術研究組合

主任研究員 山田 秀尚

化石燃料とエネルギーの主要な輸出国であるノルウェーでは、世界に先駆けて CO<sub>2</sub> 回収貯留 (CCS) を実証してきた。ノルウェー沖合に位置するスライプナー天然ガス田では、1996 年より年間 100 万トン規模の CCS が稼働している。2008 年には、スノービット天然ガス田でも年間 70 万トン規模の CCS が開始された。2012 年には、モングスタットで世界最大級の CO<sub>2</sub> 回収試験設備の操業が始まった。CCS の研究開発を産学官が一体となって推進するノルウェーで、中核的役割を果たしてきた組織が欧州最大規模の研究機関 SINTEF とノルウェー工科大学 NTNU である。

TCCS (Trondheim Conference on CO<sub>2</sub> Capture, Transport and Storage) は、SINTEF の本部および NTNU のキャンパスがあるトロンハイムで 2 年毎に開催される主要な CCS の国際会議である。昨年 (2017 年) 6 月に 9 回目を迎え、25 か国より 340 名が参加した<sup>1)</sup>。基調講演では、パリ協定を踏まえた CO<sub>2</sub> 削減シナリオ、ノルウェーの CCS 戦略、米国エネルギー省の CCS 技術開発などが話題になり、RITE も MGM 組合の膜分離技術を含む日本の先進的 CO<sub>2</sub> 回収技術について報告した<sup>2)</sup>。本活動報告では、TCCS-9 の情報をもとに、海外、特にノルウェーの CO<sub>2</sub> 分離回収技術に関する最新動向を紹介する。

1) [www.sintef.no/projectweb/tccs-9](http://www.sintef.no/projectweb/tccs-9)

2) [www.sintef.no/globalassets/project/tccs-9/presentasjoner/opening2/2---rites-advanced-co2-capture-tech---hidetaka-yamada.ppt.pdf](http://www.sintef.no/globalassets/project/tccs-9/presentasjoner/opening2/2---rites-advanced-co2-capture-tech---hidetaka-yamada.ppt.pdf)